



緑の園 6月号

ヒルトップハイツ

グリーンプラザ

デイサービスセンター

だより



第72号

令和4年6月1日発行

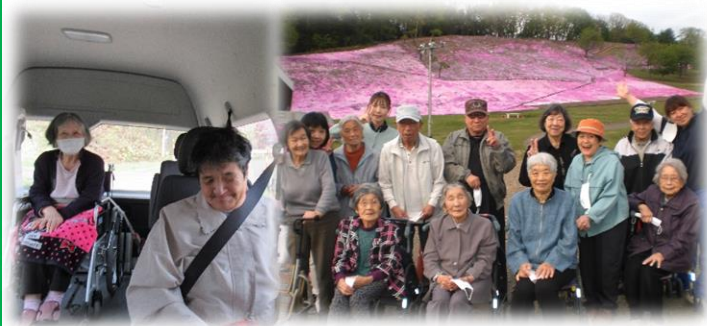
Michael Schenker Group/Assault Attack(1982)



いよいよ改築移転工事が 始まります。

先月の26日(木)に執り行われました特別養護老人ホーム丸瀬布ヒルトップハイツ等改築移転工事の業者選定のための入札結果を、同日開催された第1回理事会においてそれぞれ業者との請負契約締結についてご承諾をいただきました。

入札結果につきましては、今後当法人のホームページ等を通じて公表する予定です。



心温まるご寄付 ありがとうございました。



先月、特別養護老人ホーム丸瀬布ヒルトップハイツに対しまして心温まるご寄付を賜りましたので紹介させていただきます。

心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

特別養護老人ホーム丸瀬布ヒルトップハイツへ

遠軽町丸瀬布武利73

秋葉勝夫様

北海道の感染状況と 施設の対応に関しまして



先月の連休明けに再び感染者数が増加し、第6波が収束しないうちに次の第7波に移行したと一部報道があったりしましたが、感染者数に関してはここ最近では減少傾向です。

ただ、世間一般では収束(後)に向けての動きが少しずつ始まったものの、私たちが勤務する多くの高齢者施設では高い緊張感が続いたままです。

オホーツク管内での感染者数増の流れや、福祉施設での集団感染の発生はとても心配な状況です。

ヒルトップハイツ、緑の園、グリーンプラザにおきましては面会や外出を制限させていただく状況に変わりはありません。

テレビや新聞では感染者数の減少により徐々ににぎやかさが増しているように感じられますが、



社会と施設の中の生活との違いは利用者様はもちろんのこと、ご家族様にご負担とご迷惑をおかけしておりますことを大変申し訳なく思います。

このような状況はまだ続くと思われませんがなにとぞご容赦いただきたく存じます。

先月の出来事です。



感染症対応のため施設内で行える行事は制限があるものの、季節はいつも通りに流れています。

先月上旬には桜の花がとてもきれいに咲いていたので、ちょっとしたピクニック気分それぞれの施設でお花見に行きました。

なお、ヒルトップハイツならびに緑の園/グリーンプラザが予定しておりました8月の「盆踊り」につきましては、今年も残念ながら中止とさせていただきますこととなりました。ごめんなさい。



今月もどうぞよろしく
お願いいたします。



さて問題です。「戦争・暴力」の反対語は何だかご存じですか？

それは「対話」です。「平和」ではありません。

先月、緑の園で行ったミーティングの中でお話しした内容の一部です。

で、「平和」は「対話」の結果手に入るものです。内容が、とてもタイムリーだったのでこの話題にしたのですが、では「対話」とは何でしょうか。

「対話」とは「聞くこと・話すこと」だそうです。

「聞く」ことの反対語が「話す」ことの反対語と思われがちですが「聞くことと話すこと」が一体となったものが「対話」なのだそうです。

「話す・聞く」のやり取りの中で「今、どちらに中心がおかれているか」すなわち、話す立場になったり



聞く立場になったりの違いにすぎません。

「聞く」ことは表現であり、決して受け身ではなく「聞く」ことによって相手に働きかけます。(うなづいたり、相槌をうったりして聞いているよという表現をしますよね…。ポーっとしてたら聞いてないでしょ、とツッコミが入ります)

「聞く」人がいなければ会話は成り立たないようにコミュニケーションはいつも相手とともにあります。

そもそも他人と自分は違う。



この、「違う」ということを確認することもコミュニケーションの大切なプロセスなのです。

お互いが違うので、それを理解した上で歩みよるということが「相互理解」(わかりあうってことですね…。)にはとても重要です。

「対話」することによって得られるわかりあうという成果は、自分だけではなく相手も一緒に手に手に入れることができます。

これは、アメリカのフェリックス・P・バイスティックの著書「ケースワークの原則」(バイスティックの7つの原理)でいうところの「受容」に通じる部分でもあります。

耳は二つあるのに口は一つしかない理由、わかりますか?…。それは話すことより相手の話をよく聞いて相手のことを知るために耳のほうが多いのだそうです。

自分の主張より相手を理解するために「聞く」ことは大切なんですね。

ちなみにケータイで「聞く」の反対語を調べたら「話す」って出てたのでこれは見なかったことにします。今月もどうぞよろしく。(おばら)